

低リスクの骨髄異形成症候群 (MDS)の方を対象とした 治験のご案内

この治験の目的

この治験では、血小板輸血が必要な低リスクの骨髄異形成症候群の患者さんにおいて、治験薬『トロンボポエチン受容体作動薬』の服用により、

- ✓ 血小板輸血が不要になるか
- ✓ 血小板輸血の頻度が減るか
- ✓ 安全であるか などについて調べます。

ご参加いただける可能性がある患者様

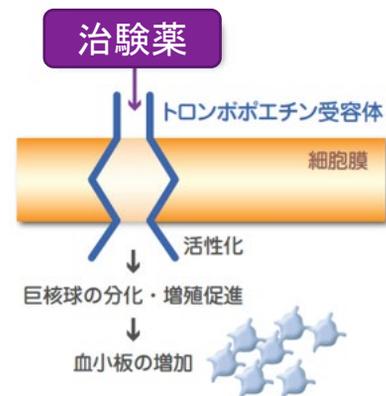
- 治験への参加に対して自由意思により文書で同意していただける方
- 20歳以上の方
- 低リスクの骨髄異形成症候群（MDS）と診断されている方
- 定期的に血小板輸血を実施している方

※その他にも参加条件があり、医師の診察や検査によって参加可能か判断されます。

使用する治験薬について

治験薬のトロンボポエチン受容体作動薬は、骨髄の中の巨核球や前駆細胞という、血小板や赤血球、好中球を作る元になる細胞にあるトロンボポエチン受容体に作用して血小板を増やす作用のほか、再生不良性貧血では赤血球や好中球を増やす作用がみられている薬です。

日本では、慢性特発性血小板減少性紫斑病について2010年に、また再生不良性貧血について2017年に、成人の患者さんの治療薬として国（厚生労働省）から承認され、使用されている薬です。



この治験に興味のある患者様・ご家族の方へ

主治医向けの案内資料を用意しています。

あなたの主治医の先生に「主治医向け案内資料」を見ていただき、治験の参加についてご相談ください。この治験に参加できる可能性があるとして主治医の先生が判断されたときは、主治医向け案内にある通院可能な治験実施医療機関の連絡先に、主治医の先生から連絡していただきます。

◆ 主治医向け案内資料

※各病院への問い合わせは、**必ず主治医の先生を通じてお願いいたします。**